看護学科　履修系統図

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

1）「生命の尊厳・生命の平等」という基本倫理のもとに、幅広い教養とコミュニケーション力を身につけるために、人間系、社会系、自然・情報系、外国語系等の総合教育科目を配置する。
2）看護実践力の基盤となる専門的知識・技術・態度を身につけ実践の課題解決を探求していくために、人体の構造と機能、疾病の成り立ち、疾病・治療論等の専門基礎科目とともに、看護の理論・方法論・実践に関わる専門科目を系統的に配置する。
3）国内外における多様な人々と連携し協働できるチーム力を身につけるために、関連職種連携や海外保健福祉事情等の医療学部との共修科目とともに国際看護学、災害看護学等の専門科目を配置する。
4）専門職として自ら学び成長する能力を身につけるために、研究方法論や卒業研究、看護学統合実習等の専門科目を配置する。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）
①幅広い教養と感性、倫理観、国際的感覚を養い、人間関係を築くコミュニケーション力を身につけている。
②保健医療福祉に関わる多職種の機能と役割を理解し、連携と協働を図るチーム力を身につけている。
③看護学の専門的知識・技術・態度の基盤を養い、地域社会における人々の健康ニーズに対応した実践力を身につけている。
④隣接する学問と看護学の専門的知識や技術を論理的に展開し、課題解決に向けて探求する力を身につけている。
⑤国内外の健康に関する諸問題に関心をもち、看護専門職者として自ら学び成長する力を身につけている

ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ（DP）とカリキュラムの関連表（◎強く関連している分野　○関連している分野）

	科目分類の学修・教育目標		1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④	DP ⑤
総合教育科目	【総合教育科目】生命倫理・人の尊厳を幅広く理解し、国際化及び情報化社会に対応できる能力、科学的・論理的思考力、主体的な判断および行動力を育成する。	人間系		コミュニケーション概論					死生学-死を通して生を考える-		◎				
			発達心理学								◎				
			心理学、哲学、倫理学、文学、教育学、教育方法論								◎				
		社会系	社会保障制度論								◎				
			社会学、メディカルマナー入門、文化人類学、雑談と傾聴-話す力と訊く力-、日本近現代史、宗教学、医学・医療史												
			経済学、国際医療福祉論、ボランティア論、ボランティア実践、日本国憲法、手話入門								◎				
							海外保健福祉事情Ⅰ（講義）海外保健福祉事情Ⅱ（実習）								◎
															◎
		自然・情報系		生命倫理		統計学					◎				
				食と人間、情報処理Ⅱ（応用）											
			生物学、物理学、医療とICT、情報処理Ⅰ（基礎）、人間工学								◎				
		保健体育系	健康科学理論												
			健康科学実践								◎				
		総合系	大学入門講座（看護）	医療福祉教養講義							◎				
		外国語系	医学英語Ⅰ(基礎)	医学英語Ⅱ（応用）							◎				
			中国語、英語（基礎）、【留学生のみ　日本語科目：日本語Ⅰ、日本語Ⅲ】												
			韓国語、英会話、プレゼンテーション英語、【留学生のみ　日本語科目：日本語Ⅱ、日本語Ⅳ】								◎				
専門基礎	**【人体の構造と機能／疾病の成り立ちと回復の促進】**		人体の構造と機能 免疫と感染	疾病の成り立ち(病理学) 病態栄養学 臨床薬理学 疾病・治療論Ⅰ(呼吸器疾患・感染症疾患・循環器疾患) 疾病・治療論Ⅱ(消化器疾患・歯科口腔・代謝と内分泌)	疾病・治療論Ⅲ（血液疾患、皮膚・膠原病、腎泌尿器疾患） 疾病・治療論Ⅳ（脳神経疾患、運動器疾患、感覚器疾患） 疾病・治療論Ⅴ（成長・発達と女性の疾患、成長・発達とこどもの疾患）	疾病・治療論Ⅵ（精神、老年期疾患、外傷と救急疾患）						◎		
	【健康支援と社会保障制度】			公衆衛生学 保健医療福祉制度論	疫学 保健統計学							◎			
						関連職種連携論	関連職種連携ワーク		関連職種連携実習			◎			
												◎			
						保健医療福祉行政論							◎		
							リスクマネジメント論、ケアマネジメント論、カウンセリング論				◎			◎	
専門	**【基礎看護学】**		看護学原論 看護実践入門 生活支援技術論	看護理論	看護過程論	臨床関連技術論							◎		
				生活支援技術論演習Ⅰ 生活支援技術論演習Ⅱ	フィジカルアセスメント	臨床関連技術論演習							◎	◎	
				生活支援論実習	看護過程論実習								◎	◎	
	【地域・在宅看護学】			地域・在宅看護学総論Ⅰ（地域での暮らしと健康）	地域・在宅看護学総論Ⅱ（地域での療養支援）	地域・在宅看護学方法論							◎		
							地域・在宅看護学演習						◎	◎	
					地域・在宅看護学実習Ⅰ（地域での暮らしと健康）			地域・在宅看護学実習Ⅱ（地域での療養支援）					◎	◎	
	【成人看護学】				成人看護学総論	成人急性期看護学方法論、成人慢性期看護学方法論		成人・老年看護学実習Ⅰ(慢性期)、成人・老年看護学実習Ⅱ(性期)、成人・老年看護学実習Ⅲ（高齢期）					◎		
							成人看護学総合演習						◎	◎	
	【老年看護学】					老年看護学概論	老年看護学方法論						◎	◎	
							老年看護学演習						◎	◎	
	【リプロダクティブヘルス看護学】					リプロダクティブヘルス看護学概論	リプロダクティブヘルス看護学方法論						◎		
							リプロダクティブヘルス看護学演習						◎	◎	
								リプロダクティブヘルス看護学実習					◎	◎	
	【小児看護学】				小児看護学概論		小児看護学方法論						◎		
							小児看護学演習						◎	◎	
					小児看護学実習Ⅰ（地域で暮らす子ども）			小児看護学実習Ⅱ（病院で治療を受ける子ども）					◎	◎	
	【精神看護学】					精神看護学概論	精神看護学方法論						◎		
							精神看護学演習						◎	◎	
								精神看護学実習					◎	◎	
	【統合看護学】								国際看護学 災害看護学			◎			◎
									看護学統合実習				◎	◎	◎
	領域に属さない科目(必修)				看護と倫理	家族看護学 リハビリテーション看護学、 健康教育学	医療安全と看護						◎		
							研究方法論		卒業研究						◎
	＜選択科目＞		性と健康の科学		ストレスマネジメント	感染と看護 グローバルヘルス 子ども健康学 公衆衛生看護学概論	クリティカルケア論		エンドオブライフケア				◎		
									看護管理論	看護教育学					◎
	【公衆衛生看護学】　保健師コース必須					公衆衛生看護学概論	地域診断論 公衆衛生看護活動論 公衆衛生看護技術論		産業・学校看護活動論	公衆衛生看護管理論					
									公衆衛生看護技術演習						
									公衆衛生看護学実習Ⅰ（個人・家族、集団・組織の支援実習） 公衆衛生看護学実習Ⅱ（公衆衛生看護活動展開実習）						

※網掛けは選択科目

理学療法学科　履修系統図

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）
①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理と豊かな教養を学修するための授業科目を開設する。
②保健・医療・福祉分野における関連職種の役割を理解しチーム医療・チームケアが実践でき、対象者の健康と体力の維持・向上に貢献できる能力を身につけるための授業科目を開設する。
③理学療法の実践に必要な、基礎的及び専門的な知識・技術を学修するための授業科目を開設する。
④国際的な視点に立ち、周辺諸国の歴史、文化、海外保健事情を理解するとともに海外での活動を体験をすることができる授業科目を開設する。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）
①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理を理解し、豊かな教養と高い専門能力を用いて、時代のニーズや地域で起こっている課題を理解することができる。
②理学療法士として医療分野における他職種の役割を理解し、対象者や利用者に共感しながらチーム医療・チームケアが実践でき、健康と体力の維持・向上に貢献できる。
③基礎的及び専門的な知識や技術に基づいた理学療法を実践できるとともに、理学療法の分野において指導者・教育者となり得る基礎的能力を身につける。
④国際化に対応した幅広い知識・技術を学修し、国際的視点を持つことができる。

	科目分類の学修・教育目標		1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	DP①	DP②	DP③	DP④
総合教育科目	【総合教育科目】生命倫理・人の尊厳を幅広く理解し、国際化及び情報化社会に対応できる能力、科学的・論理的思考力、主体的な判断および行動力を育成する。	人間系	心理学、哲学、倫理学、文学、教育学、教育方法論、コミュニケーション概論、				雑談と傾聴-話す力と訊く力-、日本近現代史、宗教学、死生学-死を通して生を考える-				◎			
		社会系	社会保障制度論、海外保健福祉事情Ⅰ（講義）、海外保健福祉事情Ⅱ（実習）、				アジア比較文化論、法学、経済学、社会学、国際医療福祉論、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ論、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ実践							◎
		自然・情報系	生命倫理								◎			
			データサイエンス、医療とICT、生物学、生化学、物理学、人間工学、医学・医療史									○		
		保健体育系	健康科学理論、健康スポーツ実践										○	
		総合系	大学入門講座、メディカルマナー入門、医療福祉教養講義								○			
		外国語系	医学英語Ⅰ	医学英語Ⅱ（留学生のみ日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ）										◎
				韓国語、中国語	英語（基礎）、英語（応用）、英会話									
専門基礎	【人体の構造と機能及び心身の発達】人体の構造と機能及び心身の発達に関する系統だてられた知識を育成する。		解剖学Ⅰ 解剖学実習 生理学Ⅰ 人間発達学 運動学Ⅰ	解剖学Ⅱ 生理学Ⅱ 生理学実習 病理学 運動学Ⅱ	運動生理学 運動学実習							◎	○	
	【疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進】健康、疾病及び障害について、その予防と回復過程に関する知識を習得し、理解力、観察力、判断力を育成する。		臨床医学概論	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学 基礎薬理学	内科学Ⅰ、神経学Ⅰ 整形外科学Ⅰ 精神医学Ⅰ、小児科学 臨床心理学概論、 救急医学	内科学Ⅱ、神経学Ⅱ 整形外科学Ⅱ、 老年学		医用画像診断学				◎	○	
			カウンセリング論、公衆衛生学、栄養学			精神医学Ⅱ								
	【保健医療福祉とﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝの理念】保健医療福祉の推進のために理学療法士が果たすべき役割について学ぶとともに、地域における関係諸機関との調整及び教育の役割を担う能力を育成する。		ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ概論			関連職種連携論	関連職種連携ワーク					◎	○	
			ｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論、保健医療福祉制度論				ﾘｽｸﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論							
専門	【基礎理学療法学】理学療法とリハビリテーションの枠組みと理論を理解し、系統的な理学療法を構築できる能力とともに、職業倫理を高める態度を育成する。			バイオメカニクス		動作分析学	病態運動学	卒業研究Ⅰ （研究計画の立案）		卒業研究Ⅱ （研究の実践）		○	◎	
	【理学療法管理学】		理学療法概論					ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ管理論				○	◎	
	【理学療法評価学】理学療法における評価の枠組みを理解し、心身の機能・構造や日常生活活動の評価に関する知識と技術を育成する。			PTスキルⅠ演習 （基礎知識の確認） 理学療法評価学	理学療法診断学Ⅰ （基礎） 理学療法診断学Ⅱ （神経診断学）	PTスキルⅡ演習 （検査・測定） 理学療法診断学Ⅲ （疾患別評価）						○	◎	
	【理学療法治療学】障害の予防と治療の観点から、種々の障害に必要な知識と技術を育成する。				物理療法Ⅰ	物理療法Ⅱ 運動療法学総論 小児理学療法学	PTスキルⅢ演習 （障害理解） 運動系理学療法学Ⅰ 神経系理学療法学Ⅰ 呼吸理学療法学 生活技術学	PTスキルⅣ演習（専門知識の確認） 理学療法治療学総論 運動系理学療法学Ⅱ 神経系理学療法学Ⅱ 代謝系理学療法学 循環理学療法学		理学療法特論Ⅰ （基礎） 理学療法特論Ⅱ （応用）		○	◎	
					癌のﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ			高次脳機能障害学 理学療法技術学 先端ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科学						
	【地域理学療法学】患者及び障害者の地域における生活を支援していくために必要な知識や技術を育成する。				生活環境学	装具学	義肢学 地域理学療法学					◎	○	
					スポーツ障害学		ｳｨﾒﾝｽﾞﾍﾙｽ理学療法学							
	【臨床実習】社会的ニーズの多様化に対応した臨床的観察力・分析力とともに、治療計画立案能力・実践能力を育成する。		基礎実習				評価実習	地域理学療法学実習	臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ			○	◎	

作業療法学科　履修系統図

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）
①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理と豊かな教養を学修するための授業科目を開設する。
②人の心と生活を支えるために必要な専門知識と技術を兼ね備え、チーム医療・チームケアが実践できる人材を育成するための授業科目を開設する。
③科学的・創造的探究心を持ち、作業療法の実践に必要な、基礎的及び専門的な知識・技術を学修するための授業科目を開設する。
④国際的な視点に立ち、周辺諸国の歴史、文化、外国保健事情を理解するとともに海外での活動を体験をすることができる授業科目を開設する。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）
①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理を理解し、豊かな教養と高い専門能力を用いて、時代のニーズや地域で起こっている課題を理解することができる。
②作業療法士としての専門的知識、技術を有し、他職種と協働してチーム医療・チームケアを実践することができ、社会的責任をもって人の心と生活を支援できる。
③向上心、探究心をもって、科学的・創造的思考を身につけ作業療法を実践できるとともに、作業療法の指導者・研究者となり得る基礎的能力を身につける。
④国際化に対応した幅広い知識・技術を学修し、国際的視点を持つことができる。

ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ（DP）とカリキュラムの関連表（◎強く関連している分野　○関連している分野）

	科目分類の学修・教育目標		1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	DP①	DP②	DP③	DP④
総合教育科目	【総合教育科目】生命倫理・人の尊厳を幅広く理解し、国際化及び情報化社会に対応できる能力、科学的・論理的思考力、主体的な判断および行動力を育成する。	人間系	心理学、哲学、倫理学、文学、教育学、教育方法論、コミュニケーション概論、				雑談と傾聴-話す力と訊く力-、日本近現代史、宗教学、死生学-死を通して生を考える-				◎			
		社会系	社会保障制度論、海外保健福祉事情Ⅰ（講義）、海外保健福祉事情Ⅱ（実習）、				アジア比較文化論、法学、経済学、社会学、国際医療福祉論、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ論、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ実践							◎
		自然・情報系	生命倫理								◎			
			データサイエンス、医療とICT、生物学、生化学、物理学、人間工学、医学・医療史									○		
		保健体育系	健康科学理論、健康スポーツ実践										○	
		総合系	大学入門講座、メディカルマナー入門、医療福祉教養講義								○			
		外国語系	医学英語Ⅰ	医学英語Ⅱ（留学生のみ	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ）									◎
				韓国語、中国語	英語（基礎）、英語（応用）、英会話									
専門基礎	【人体の構造と機能及び心身の発達】正常な人の機能解剖、運動生理、人の成長段階に沿った心身の発達、また正常を逸脱した病気の原因や発生機序についての専門的知識を習得する。これらにより作業療法評価の基礎知識を育成する。		解剖学Ⅰ 解剖学実習 生理学Ⅰ 人間発達学 運動学Ⅰ	解剖学Ⅱ 生理学Ⅱ 生理学実習 病理学 運動学Ⅱ	運動生理学 運動学実習							◎	○	
	【疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進】疾病及び障害について、病態像、予後予測のための画像診断、また健康維持・促進に対応する栄養学を学ぶ。これにより予防と回復過程に関連する知識を習得し、作業療法評価・治療の実践につながる観察力、判断力を培う。			ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学 基礎薬理学	臨床医学概論 内科学Ⅰ、神経学Ⅰ 整形外科学Ⅰ 精神医学Ⅰ、小児科学 臨床心理学概論	内科学Ⅱ 神経学Ⅱ 整形外科学Ⅱ 老年学 精神医学Ⅱ		医用画像診断学				◎	○	
			カウンセリング論、公衆衛生学、栄養学											
	【保健医療福祉とﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝの理念】保健医療福祉制度、地域包括ケアシステム、リハビリテーション理念、関係諸機関との連携に関する知識を習得し、各機関、病期による作業療法士が果たすべき役割について学ぶ。また専門職の教育的役割を担う能力を育成する。		ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ概論				関連職種連携論	関連職種連携ワーク				◎	○	
			ｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論、保健医療福祉制度論					ﾘｽｸﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論						
専門	【基礎作業療法学】作業療法について、その概念、歴史、「作業」の意味・適応、倫理観、管理運営、また研究法について学び、作業療法の課程について必要な知識と技能を習得する。		作業療法概論 作業学概論 作業工程技術学・基礎論	作業工程技術学・応用論	作業分析学Ⅰ（基礎）	作業分析学Ⅱ（応用）			卒業研究Ⅰ	卒業研究Ⅱ 作業療法総括論		○	◎	
						作業応用論								
	【作業療法管理学】					ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ倫理学	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ管理論					○	◎	
	【作業療法評価学】作業療法過程における評価（画像情報を含む）の枠組みについて、また各障害、各病期、各年齢における評価技法について学び、作業療法評価に必要な知識と技術を習得する。				生活機能論 作業療法評価学概論	作業療法評価学各論 基礎運動機能評価法 高次脳機能評価法 作業療法評価学演習						○	◎	
	【作業法治療学】作業療法過程における治療の枠組みについて、また各疾患、各障害、各年齢への作業の適応について学習し、対象者の生活支援にむけた作業療法治療を実践する能力を培う。					作業療法適用学概論 ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ技術論 障害代償学概論	中枢神経疾患作業療法学Ⅰ（総論） 高次脳機能障害作業療法学 老年期作業療法学 運動器疾患作業療法学 内科系疾患作業療法学 精神疾患作業療法学Ⅰ（総論） 精神疾患作業療法学Ⅱ（各論） 小児作業療法学Ⅰ（総論） 生活技術学Ⅰ（総論） 自助具・福祉機器適用論 義肢適用論	中枢神経疾患作業療法学Ⅱ（各論） 小児作業療法学Ⅱ（各論） 生活技術学Ⅱ（各論） 装具・副子適用論 職業関連技術学				○	◎	
						作業療法諸理論		中枢神経疾患作業療法学Ⅲ（特論） 精神疾患作業療法学Ⅲ（特論） 小児作業療法学Ⅲ（特論）						
	【地域作業療法学】地域包括ケアシステムの枠組みについて、また、各疾患、各障害、各年齢に適した住環境整備、社会資源の活用等について学習し、作業療法士として、障害者児、高齢者の地域生活（在宅生活・就労・就学等）の支援を展開するための能力を培う。			地域生活支援論	バリアフリー論 地域生活作業療法論				住環境整備論			◎	○	
	【臨床実習】学内で習得した知識・技術を見学実習、評価実習、総合実習と段階的に、また各障害、各病期、各年齢について偏りなく行うことにより、多様化した社会的ニーズに対応できる専門的知識・技術・態度を習得し、作業療法の実践力を身につける。		基礎実習Ⅰ	基礎実習Ⅱ				地域作業療法実習	評価実習	総合実習		○	◎	

言語聴覚学科　履修系統図

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）
① 「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理と豊かな教養を学修するための授業科目を開設する。
② 保健・医療・福祉分野における関連職種の役割を理解し、チーム医療、チームケアが実践でき、対象者の生活の質の向上と地域医療の活性化に貢献できる人材を育成するための授業科目を開設する。
③ 言語聴覚療法の基礎的及び専門的な知識・技術を学修し、臨床における問題点の本質を捉え、自らの力でその問題を解決に導ける実践的能力を育成するための授業科目を開設する。
④ 国際的視野に立ち、周辺諸国の歴史、文化、海外保健事情を理解するとともに海外での活動を体験することができる授業科目を開設する。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）
①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理を理解し、豊かな教養と高い専門能力を用いて、時代のニーズや地域で起こっている課題を理解することができる。
② 言語聴覚士として他職種の役割を理解し、チーム医療・チームケアを実践し、対象者の生活の質の向上と地域医療の活性化に貢献できる。
③ 基礎的および専門的な知識や技術に基づいた言語聴覚療法を実践できるとともに、言語聴覚療法の指導者・研究者となり得る基礎的能力を身につける。
④ 国際化に対応した幅広い知識・技術を学修し、国際的視点を持つことができる。

	科目分類の学修・教育目標		1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	DP ①	DP ②	DP ③	DP ④
総合教育科目	【総合教育科目】生命倫理・人の尊厳を幅広く理解し、国際化及び情報化社会に対応できる能力、科学的・論理的思考力、主体的な判断および行動力を育成する。	人間系	心理学、哲学、倫理学、文学、教育学、教育方法論、コミュニケーション概論、				雑談と傾聴-話す力と訊く力-、日本近現代史、宗教学、死生学-死を通して生を考える-				◎			
		社会系			海外保健福祉事情Ⅰ（講義）、海外保健福祉事情Ⅱ（実習）									◎
			アジア比較文化論、法学、経済学、社会学、国際医療福祉論、社会保障制度論、				ボランティア論、ボランティア実践				◎			
		自然・情報系		生命倫理							◎			
			データサイエンス、医療とICT、生物学、生化学、物理学、人間工学、医学・医療史									○		
		保健体育系	健康科学理論、健康スポーツ実践										○	
		総合系	大学入門講座、メディカルマナー入門、医療福祉教養講義								○			
		外国語系	医学英語Ⅰ	医学英語Ⅱ（留学生のみ英会話、日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ）										◎
				韓国語、中国語	英会話									
専門基礎	【基礎医学】		解剖学 臨床医学概論	生理学 病理学								◎	○	
	【臨床医学】		臨床医学概論	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学	内科学Ⅰ（基礎） 精神医学 小児科学	臨床神経学 耳鼻咽喉科学	形成外科学					◎	○	
	【臨床歯科医学・口腔外科学】				臨床歯科医学		口腔外科学					◎	○	
	【音声・言語・聴覚医学】				中枢神経機能学 音声言語医学 聴覚医学								◎	
	【心理学】		生涯発達心理学	認知心理学	臨床心理学	学習心理学 神経心理学 心理測定法 心理測定法演習							◎	
	【言語学】			言語学Ⅰ（基礎）	言語学Ⅱ（発展）								◎	
	【音声学】			基礎音声学	音声学								◎	
	【音響学】					音声音響学	聴覚心理学						◎	
	【言語発達学】			言語発達学									◎	
	【社会福祉・教育】		保健医療福祉制度論 ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ概論			関連職種連携論	関連職種連携ワーク					◎	○	
	【選択必修分野】		公衆衛生学、ケアマネジメント論、基礎薬理学、栄養学、カウンセリング論、救急医学、内科学Ⅱ（臨床）、老年学、児童精神医学、リスクマネジメント論									◎	○	
	【言語聴覚障害学総論】			言語聴覚障害学概論 コミュニケーション障害演習	コミュニケーション技能演習		言語聴覚障害診断学			言語聴覚療法特論		○	◎	
	【失語・高次脳機能障害学】				失語症・高次脳機能障害学総論Ⅰ（基礎）	失語症・高次脳機能障害学総論Ⅱ（展開）	失語症学Ⅰ（評価・診断） 失語症・高次脳機能障害学演習 高次脳機能障害学	失語症学Ⅱ（治療）				○	◎	
	【言語発達障害学】				言語発達障害学総論	言語発達障害学各論	言語発達障害学Ⅰ（評価・診断） 言語発達障害学Ⅰ演習(評価･診断)	言語発達障害学Ⅱ（指導） 言語発達障害学Ⅱ演習(指導)				○	◎	
	【発声発語・嚥下障害学】				発声発語障害学総論	流暢性障害学 機能性構音障害学	器質性構音障害学 運動障害性構音障害学Ⅰ（理論） 音声障害学	運動障害性構音障害学Ⅱ（評価診断・治療）				○	◎	
	【聴覚障害学】				聴覚障害学総論	聴覚機能評価学	聴覚補償論（補聴器・人工内耳など） 小児聴覚障害学Ⅰ(評価･診断) 摂食・嚥下障害学Ⅰ（理論・評価診断）	小児聴覚障害学Ⅱ（指導） 成人聴覚障害学（二重障害を含む） 摂食・嚥下障害学Ⅱ（治療） 言語聴覚障害基礎演習				○	◎	
	【臨床実習】							臨床実習Ⅰ（基礎）	臨床実習Ⅱ（総合）			○	◎	
	【選択必修分野】						言語聴覚障害学研究法						◎	

ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ（DP）とカリキュラムの関連表（◎強く関連している分野　○関連している分野）

視能訓練学科　履修系統図

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）
①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理と豊かな教養を学修するための授業科目を開設する。
②眼科医療において必要とされる専門的知識と技術を学修し、さらに他職種と円滑なコミュニケーションを図りながら医療チームの一員として活躍でき、目の健康と生活の質の向上に貢献できる人材を育成するための授業科目を開設する。
③視覚分野における学術的課題を自ら見出し、科学的根拠に基づいて論理的に分析できる人材を育成するための授業科目を開設する。
④国際的な視点に立ち、周辺諸国の歴史、文化、海外保健事情を理解するとともに海外での活動を体験することができる授業科目を開設する。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）
①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理を理解し、豊かな教養と高い専門能力を用いて、時代のニーズや地域で起こっている課題を理解することができる。
②視能訓練士として必要な知識と技術を有し、さらに他職種と連携してチーム医療を推進することができ、目の健康と生活の質の向上に貢献できる。
③視覚分野における学術的課題を多角的視点から思考し、収集した情報を科学的根拠に基づいて論理的に分析し解決することができるとともに、視能訓練の指導者・研究者となり得る基礎的能力を身につける。
④国際化に対応した幅広い知識・技術を学修し、国際的視点を持つことができる。

	科目分類の学修・教育目標		1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	DP①	DP②	DP③	DP④
総合教育科目	【総合教育科目】生命倫理・人の尊厳を幅広く理解し、国際化及び情報化社会に対応できる能力、科学的・論理的思考力、主体的な判断および行動力を育成する。	人間系	心理学、哲学、倫理学、文学、教育学、教育方法論、コミュニケーション概論、				雑談と傾聴-話す力と訊く力-、日本近現代史、宗教学、死生学-死を通して生を考える-				◎			
		社会系	社会保障制度論、海外保健福祉事情Ⅰ（講義）、海外保健福祉事情Ⅱ（実習）、				アジア比較文化論、法学、経済学、社会学、国際医療福祉論、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ論、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ実践							◎
		自然・情報系		生命倫理							◎			
			データサイエンス、医療とICT、生物学、生化学、物理学、人間工学、医学・医療史									○		
		保健体育系	健康科学理論、健康スポーツ実践										○	
		総合系	大学入門講座、メディカルマナー入門、医療福祉教養講義								○			
		外国語系	医学英語Ⅰ	医学英語Ⅱ（留学生のみ日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ）										◎
				韓国語、中国語	英語（基礎）、英語（応用）、英会話									
専門基礎	【人体の構造と機能及び心身の発達】人体の構造と機能及び心身の発達に関する系統だてられた知識を育成する。		解剖学 生理学 人間発達学	生理学実習 病理学 保育								◎	○	
	【疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進】健康、疾病及び障害について、その予防と回復過程に関する知識を習得し、理解力、観察力、判断力を育成する。			基礎薬理学	臨床医学概論 内科学Ⅰ 神経学Ⅰ 精神医学Ⅰ 小児科学 臨床心理学概論 救急医学	内科学Ⅱ 神経学Ⅱ 老年学 視覚と高次脳						◎	○	
			カウンセリング論、リハビリテーション医学、公衆衛生学、栄養学、精神医学Ⅱ											
	【視覚機能の基礎と検査機器】視覚の情報処理過程を学び、視機能を評価する力を育成する。		視機能概論	視器解剖学 視覚生理学Ⅰ（基礎） 視覚情報処理論Ⅰ（視知覚）	視覚生理学Ⅱ（応用） 視覚情報処理論Ⅱ（視覚認知）		視覚生理学Ⅲ（実践）	眼薬理学				◎	○	
	【保健医療福祉と視能障害のリハビリテーションの理念】保健医療福祉推進のために視能訓練士が果たすべき役割について学ぶとともに、地域社会における関係諸機関との調整及び教育的役割を担う能力を育成する。		ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ概論 聴覚障害とコミュニケーション			関連職種連携論 視覚障害とコミュニケーション	関連職種連携ワーク					◎	○	
			ケアマネジメント、保健医療福祉制度論				リスクマネジメント論							
専門	【基礎視能矯正学】視能矯正の枠組みと理論を理解し、系統的な視能矯正を構築する能力を育成する。		視能矯正学Ⅰ（眼位・眼球運動） 生理光学		視能矯正学Ⅱ（両眼視機能）		視能矯正学総括論Ⅰ（基礎） 卒業研究Ⅰ 屈折矯正Ⅱ（実践）	眼科診療学	卒業研究Ⅱ	視能矯正学総括論Ⅱ（応用）		○	◎	
								視能矯正学特論						
	【視能検査学】視能検査の専門的知識と技術、その結果を評価する能力育成する。		視能検査学基礎	視能検査学Ⅰ（視力検査）	視能検査学Ⅲ（前眼部検査）	視能検査学Ⅱ（視野検査） 視能検査学Ⅳ（後眼部検査）	眼科画像解析学	視能検査評価学	視能検査学総合演習			○	◎	
								視能検査学特論						
	【視能障害学】視能障害の予防と治療の観点から、視覚に関わる高次脳機能障害も含めた種々の障害の知識を育成する。			視能障害学総論	視能障害学Ⅰ（神経眼科・緑内障）	視能障害学Ⅱ（前眼部疾患）	視能障害学Ⅲ（黄斑部・網膜疾患） 文献読解と研究実践法 OSCEⅠ（医療面接）	OSCEⅡ（視能検査）				○	◎	
								眼科診療コミュニケーション学、視能障害学特論						
	【視能訓練学】視覚発達の促進や種々の視能障害に対する矯正、訓練、指導及び管理の立場から必要な知識と技術を育成する。				視能訓練学基礎Ⅰ（弱視） 視能訓練学応用Ⅰ（弱視）	視能訓練学基礎Ⅱ（斜視） 視能訓練学応用Ⅱ（斜視） 視能訓練学実践Ⅰ（弱視）	視能訓練学実践Ⅱ（斜視） 視能訓練学発展 ロービジョン学Ⅰ（理論）	視能訓練学基礎Ⅲ（眼振） ロービジョン学Ⅱ（実践）				○	◎	
								視能訓練学特論						
	【臨地実習】基本的な視能矯正の実践技術の能力を養い、患者との人間関係から共感的態度と医療チームの一員としての責任と自覚を育成する。						臨地実習Ⅰ		臨地実習Ⅱ			○	◎	

ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ（DP）とカリキュラムの関連表（◎強く関連している分野　○関連している分野）